

北見武道通信

令和7年9月11日 00760号

編集者:佐藤寿春

北見市幸町8丁目4-4(佐藤整骨院内)

NPO法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-22-2212 Fax:0157-23-0581

URL <http://www.kitamibudokan.org/>

satou.tosiharu@navy.plala.or.jp

ニュースレター【事務局情報】

短編小説「釣り針」①～③「釣り針」③

「上人さま、釣れますか」

いつものように少年がたずねる。坊主は飽きもせず目の前の水を眺めている。

「いいや、まだまだ」

坊主はにこにこしながら答える。

「上人さま」

そんな坊主に、太郎はもう一度声をかけた。

「なんだ、太郎」

坊主が振り返って応じる。

太郎は釣りざおの方も気にしながら、坊主の顔を見た。

「釣りは、楽しいですか」

そう太郎はきいた。

それを聞いた坊主は、にっこり笑って答えた。

「楽しいものだよ。釣れなくてもな」

日はゆっくりと動いてゆく。のどかな日の光が春の空気をつくり、二人をあたためていった。

完 <ゆいか>

将来の女子柔道家



まりもちゃんは五歳！最近、北見市武道館に来て柔道を学び始めました。柔道のことはまだよく分からないはずですが、毎週水曜日には北見練心会の稽古に來ています。同じ五歳から柔道をはじめた現在二十歳の女子柔道家

吉田瑞希さんから「まりもちゃんの指導を頼みます」と依頼され出向いて見ると、将来有望とすぐにわかりました。それは、まりもちゃんがとても楽しそうに柔道をするからです。今後は専属トレーナーとして記者も道場に行くことになりました。〈佐藤〉

連載「武道宝鑑」第2弾 磯貝 一

<柔道指導の心得>

○修行の原則 3 二、指導上に心得べきこと

次にまた、攻撃防御のいづれを先に拾得せしめるかという問題がある。勿論それは一面修行者の気質にも関係あることであるが、まだ十分技がきかぬ先から防御を主とするに至り、または返し技を特長とするようになる事がある。これ等のものはややもすると消極的に陥ってしまうことがある。尤もこれも、前に述べたように、その傾向を全然打ち消すことは考えものであるが、かかる傾向を発見した場合は、指導者は出来るだけその人の攻勢的技を引き伸ばすように注意する事が肝要である。返し技の如きは上手になると技としての努力を要せず、所謂楽な技なるが故に、自然それに習慣づけられるようになり易い。柔道の技としては校正的な技と同時に、防御より攻勢に轉ずる技ににも達していなければならぬが、これも攻撃を主として防御を従として学ばせるように心掛けるべきである。これらの事は指導者の指示教導にまつ事ことすこぶ頗る大であるから、指導者は常に注意して、修行者をして誤りなく修行するように努めねばならぬ。 つづく

